

青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議
第46号
平成27年3月17日(火)

大人が変われば子どもも変わる

～「大人が変わるためのセミナー」から～

平成26年度も締めくくりの時期を迎えております。今年度も当県民会議の事業にご協力くださいましてありがとうございました。多様な課題を抱える現代社会の中にあっても未来を担う子どもや若者を育み支援するのは大人の私たちである、という思いをいっそう強くしております。その意味でも「大人が変わるためのセミナー」では大変有意義なお話をお聞きできましたので、今年度第2回及び第3回のセミナーについてご紹介いたします。(第1回セミナーの内容は第43号で紹介いたしました。)

第2回セミナー

演題 「子ども・若者を取り巻くインターネットの現状と対策」

講師 根本 雅昭 氏(特定非営利法人日本コンピュータ振興協会理事長)

昨年10月11日(土)に三春交流館「まほら」(三春町)で開催されました。会津大学大学院コンピュータ理工学研究科を卒業された根本先生は、今回のセミナーで「有害サイトー現状と対策ー」という観点からお話してくださいました。



○青少年に関わるトラブル事例の一部

- ・16才の女子がゲームサイトで知り合った30才の男に殺害された。
- ・インターネットに自己紹介→個人を特定されて被害に遭う例多数。
→大量の迷惑メールやコンピュータウイルスが届いたり違法サイトの広告に勝手に利用されたりした。
- ・ゲーム機にスマホの機能がある→ネットの出会い系サイトを閲覧して被害。
- ・ネットに「殺す」と書き込んだ17才の高校生が逮捕された。
- ・ネット依存で心身の健康を害している例多数。(外国では若者の死亡例もある)
- ・学校関係の非公式サイト(学校裏サイト)によるいじめ・人権侵害。

○対策の一例⇒各家庭でのルール作り

＜ルールで決めておきたい項目＞

- ・利用目的・利用時間・利用場所・閲覧するサイト個人情報、悪口、嘘を書き込まない。
- ・著作権を守る・知らない人と出会わない・ネットに個人情報を載せ過ぎない。
- ・出会い系サイトやあやしいサイトは閲覧しない。
- ・チェーンメールは絶対に転送しない。

○「大人」として大事なこと

- ・スマホやネットは「よく分からない」という理由で「子ども任せ」にしない。
- ・親子のコミュニケーションを絶やさず、**フィルタリング**に加入する。(平成21年4月より法律制定：18歳未満の児童・生徒が使用する携帯電話等は、フィルタリング加入)

第3回セミナー

演題 「自立って何だろう」

講師 清水 国明 氏(特定非営利法人明日飛^{あすび}子ども自立の里 理事長)

去る2月21日(土)に福島県青少年会館で開催されました。清水先生は鮫川村で「明日飛子ども自立の里」を運営され、子どもの自立支援の最前線に立って活躍されています。日々の実践に基づくお話からたくさんのヒントをいただきました。



○ 明日飛の子どもたち

・感性豊かな、いい子たち→それ故に傷つき苦しみ、自信を持ってない。しかしそのことを自分から言おうとはしない。

→大人が寄り添いながら、察知することが大切。

○ 傷ついた (ひきこもり、自信がない=自分がきらい、他人がこわい) 心

・「普通に」生活することは「東京タワーの上から外に突き出した平均台」を渡るような感覚に例えると分かりやすい。

→「がんばれ」と励ますことが逆効果の場合もある。(怖がっている肩を無理矢理押せばどうなるかを想像し、対応を考える必要がある。)

○ 若者の現状

・「絶対的信頼」(無条件の愛) が育ちにくい

↑

母親が赤ちゃんの目を見て授乳(「信じていい」という確信) ⇔ スマホ片手の授乳

※「ゲーム脳」→前頭前野の働きが低下→判断しない回路→キレやすい(1日2時間以上週4日以上ゲームするのは危険)

回復例→お手玉、じゃんけん

○ 「自立」とは

- ・自分のことが分かる(自己認識): 自分で変えられること、変えられないことを知りそれを受け入れる力
- ・自分で決める(自己決定): いつも親(大人)が決めると自己決定力育たない。自信、勇気、自己肯定力が基盤
- ・自分で責任をとる(自己責任): 自分の人生を自分で引き受ける

⇒ 練習が必要

○ 自立のために

・「育つ」= 神経回路の構築: 人は肯定された(ほめられた)時のみ育つ

↑ 50点しかとれない(引き算的)

100点満点のテストで50点

↓ 50点もとれた(足し算的) ⇒ 肯定的

・子育ての中での厳しさやしつけ: 「絶対的信頼」があればこそ、効果がある

・人生に魔法の杖=「自信」を

↑

大人が肯定し続けることで、子どもは自己肯定できるようになる！！



デンマーク・ドイツ・イギリスからの訪問団来館

～青年社会活動コアリーダー育成プログラム参加者一行～

折しも桃の節句、内閣府の青少年交流事業の一環として招聘された青年リーダー13名と関係者の方々が鈴木登三雄館長を表敬訪問しました。

青年社会活動コアリーダー育成プログラムは、多様な個人が能力を発揮しつつ、自立して共に社会に参加し、支え合う「共生社会」を築いていくため、地域住民やNPOなどによる社会活動の充実をめざす事業です。(内閣府HPより)



標記3カ国で青少年健全育成などに関わっている25歳～39歳のメンバーが、本県の取り組み等の視察を通して自国の青少年育成リーダーとしての資質を高めるために来日しました。東京での研修を終え、3月3日から8日まで本県に滞在し福島市内の施設や事業所見学・体験活動、セミナー等のプログラムが組まれています。

鈴木館長から、「福島県青少年会館」の概要や「青少年育成県民会議」の事業について説明がありました。その後、質疑応答等活発に意見が交わされ、予定時間を超えて熱心に交流しました。



「各市町村民会議活動概要」のご報告ありがとうございました！

今年度も各市町村民会議におかれましては、実態に応じた活動を推進されたことと思います。報告していただきました活動概要を印刷製本しました。一堂に会しての情報交換はなかなか難しいと思いますので、ぜひ冊子をご活用ください。

最近も、青少年が関わる悲惨な事件がありました。ついこのあいだまで「かわいい子ども」であり「無邪気な赤ん坊」だったのではないか・・・いつ、どの時点で道をまちがえてしまったのだろうか、大人はどのように関わっていけばいいのだろうか・・・と心が痛みます。

県内全市町村に、青少年を健全に育成することを目的とした組織がある意義はとても大きいと思います。将来の福島県を担う青少年が心身ともに健やかにたくましく成長していけるように、私たち大人が組織的に活動すれば必ず成果が出ると信じております。各市町村民会議が核となって青少年の心を育んでくださいますようお願い申し上げます。

今年度の活動概要から活動例をいくつかご紹介いたします。（一部抜粋）

岩瀬郡天栄村

「てんえい親子でつなぐ7つの愛言葉」

保護者へのアンケートに基づき、家庭で大切にしていることを「7つの愛言葉」として作成し、学校・家庭・地域全体で実践できるようにしている。

月	おはようと	交わすことばで	元気なスタート	（生活習慣）
火	続けよう	早寝 早起き	朝ごはん	（生活習慣）
水	決まった時間に決まった場所での	家庭学習		（学習習慣）
木	ありがとうを	先に伝える	思いやり	（豊かな心）
金	家庭のマナー	みんなそろって	守る約束	（規範意識）
土	一人一役	協力できる	お手伝い	（責任感）
日	親子でつくる	笑顔の時間		（コミュニケーション）

南会津郡下郷町

「おはよう清掃活動」

5月～11月までの間、子どもたちが地域の方々と協力して取り組み、ボランティア精神の高揚と世代間の交流等成果があった。活動終了後、優良子ども会の表彰を各学校にて行った。



相馬郡新地町

「読書活動事業」

読書活動ボランティアによる読み聞かせ活動、読書環境整備を学校、図書館と連携して行うことにより、子どもの読書に対する関心を高めることができた。

平成26年度子どもの読書活動優秀実践図書館・団体に対する文部科学大臣表彰受賞